



千賀充能
自民党市議団

インバウンド対応について

問 今後のインバウンド受入体制は、どのように進めて行くのか伺う。

答 一般社団法人蒲郡市観光協会とともに、インバウンド向けの情報発信、誘客施策等を検討し実施していく。本年度については、一般社団法人蒲郡市観光協会主導で、文化庁や観光庁の補助金等を活用した竹島の英語ガイド育成及び多言語解説文の整備を行っていく予定である。

高齢化率の高い当市の課題と問題点について

問 在宅医療需要について、対応すべき課題は何か。

答 現在は、市内で16名の医師による協力体制だが、今後増加が予

測される在宅医療患者を支援するためには、医療従事者の確保が課題として挙げられる。

現状での専門職、人材等のマンパワーについて

問 今後の喫緊課題への取組に向けたマンパワー対応について。

答 認知症、独居、虐待等の件数の増加など喫緊の課題について、高齢福祉分野におけるマンパワーの必要性も高まる中、保健師など専門的な人材が求められるが、長寿課の現体制について関係各所の意見を伺いながら、必要とされる体制整備の構築の検討を進めていく。



松本昌成
公明党市議団

大規模災害に備えるトイレ環境の改善

問 携帯トイレの備蓄計画や現状、今後の方針について伺う。

答 令和6年4月1日現在、本市では簡易トイレや貯留式多目的トイレ等を整備している。便座に取り付ける使い捨ての便袋「携帯トイレ」は約7万枚を備蓄しており、9年度を目標に約14万4800枚を整備予定である。

子どもにやさしいまちづくり事業の推進

問 「ユニセフCFC-I実践自治体」としての承認を目指すことについて見解を伺う。

答 本市は現在「こども総合計画」の策定に取り組んでおり、まずはこの中で子育て支援に関する市の施策や方向性を示していきたい。



携帯トイレ

高齢者・難聴者の生活の質の向上

問 軟骨伝導イヤホンの導入について伺う。

答 耳の聞こえづらい高齢者等とのコミュニケーション手段として期待できると考える。近隣市町村の導入状況等も注視しつつ、製品の有用性、操作性等について検討したい。

難聴高齢者補聴器購入費補助事業の実施について

問 難聴高齢者補聴器購入費補助事業の実施について伺う。

答 県内での導入自治体は増えている。近隣市町の動向を注視するとともに補助内容等について研究し、難聴高齢者への補助制度導入の検討をしたい。



芦刈純奈
自民党市議団

子どもの居場所の今後の方向性

問 子ども食堂の現状と関係者のネットワーク構築について伺う。

答 平成30年7月に「ノコズキッチン」が開設され、現在7か所ある。令和6年4月に「子ども食堂連絡会」が開催され、こども家庭センターが参加した。

問 子どもの居場所として児童育成支援拠点事業について伺う。

答 日本財団の子ども第三の居場所事業があり、5年7月から「ロッキンハウス」を開所、市内の小学生50名程度が利用している。今後も関係機関と連携し、子どもの居場所事業の充実を図り、包括的な家庭支援に努めていく。

保育・福祉現場等で活躍する人材の確保



問 こども健康部を創設し「こどもファースト」の施策を進めていく中で、障がいのある無に関わらず相談からサービス申請、支援まで一括して行っていくことが理想と考える。市の考えを伺う。

答 本市では、子ども・子育て支援を市の最重要施策の一つとして位置付け、様々な施策を進めてきている。子どもの福祉サービスに関する相談や支援だけでなく、子ども・子育て支援施策については、こども健康部を中心に、庁内各部が連携する体制の更なる充実を図っていきたいと考えている。